

諮問第 1 号 いのゆきうじ 伊行氏関連石造遺物群

種 別	有形文化財（彫刻・建造物）	
名称及び員数	伊行氏関連石造遺物群	4 点
	一、石仏寺石造阿弥陀如来及両脇侍像	3 軀
	一、石仏寺石造阿弥陀如来立像	1 軀
	一、石仏寺石造地藏菩薩立像	1 軀
	一、無量寺五輪塔	1 基
所在地	生駒市藤尾町 96 番地 生駒市壺分町 853 番地	
所有者	石仏寺 無量寺	
時代	鎌倉時代 永仁 2 年（1868）	
概要	石工伊派に属する伊行氏 <small>いのゆきうじ</small> が制作した資料群である。	

伊派は、鎌倉時代東大寺大仏と大仏殿再建のために、鑄物師ちんなげい陳和卿に従って明州から来日した伊行末を始祖とする宋人石工集団であり、再建工事に携わり、その後も日本に居住・帰化し各地に石造物の造立活動を展開した。

市内の暗越街道筋周辺には、多くの石造遺物が残るが、なかでも、伊行氏の造像作品がみられる。

藤尾町内街道沿いの石仏寺本堂内に安置されている本尊阿弥陀如来及両脇侍像は、永仁 2 年（1294）造立で、中尊の阿陀如来坐像は丸彫りとし、中尊の光背両脇に脇侍観音、勢至菩薩を半肉彫りで表す。光背面に「永仁二年甲午二月十五日 大願主行佛 大工伊行氏」の刻銘をもつ。同じく堂内に安置される 2 軀の像のうち、阿弥陀如来立像は、嘉元 4 年（1306）の刻銘があり、地藏菩薩立像には刻銘はないが、両像とも本尊と作風が似通い、3 軀とも同じ作者であることが推定される。

壺分町無量寺の境内に立つ五輪塔は、嘉元 2 年（1304）の造立で、地輪部側面に「大工井行氏」の刻銘が残る。

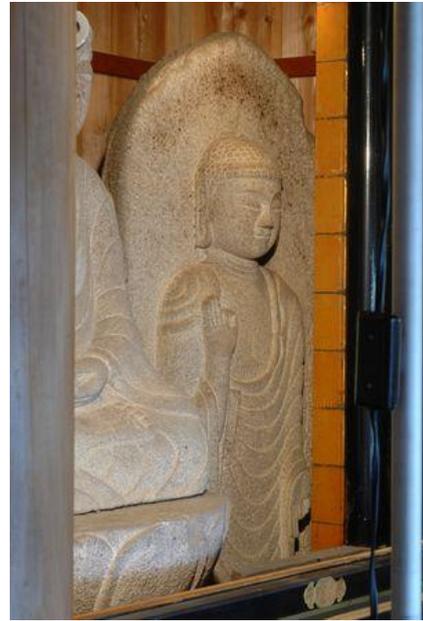
伊派石工の造像の背景には、文暦 2 年（1235）に竹林寺（有里町）において行基墓が開掘されたことで行基信仰を広めた律宗僧侶たちの活躍が指摘される。鎌倉時代の石造美術史の一端を担う貴重な資料群といえる。

内訳

石仏寺 石造阿弥陀如来及 両脇侍像	像高 阿弥陀 100.8cm 観音 35.3cm 勢至 35.3cm 光背高 121.4cm	鎌倉 時代	永仁 2 (1294)	光背銘 向かって右「永仁二年甲午二月十五日」 向かって左「大願主行佛 大工伊行氏」
石仏寺 石造阿弥陀如来立 像	像高 155.5cm (蓮華座含) 光背高 180.0cm	鎌倉 時代	嘉元 4 (1306)	光背銘 向かって右「嘉元四年七月日近住行佛」
石仏寺 石造地藏菩薩立像	像高 138.2cm 光背高 161.5cm	鎌倉 時代	不明	無銘
無量寺 五輪塔	総高 86.0cm 幅 54.5cm	鎌倉 時代	嘉元 2 (1304)	(南面) 右為二親并 法界衆生 平等利益也 夫以弟子慈 勝 宿因有幸 生佛法流世 (西面) 善果感是 預行基之 益 是則生々 値遇也世々 結縁 也依々 且為報菩提 (北面) 恩德且為訪 法界衆生 所造立之如 件敬白 嘉元二 年 二月十八日 (東面) 願主慈勝 比丘入西 沙弥願永 尼心阿弥 大工井 行氏



石仏寺石造阿弥陀如来及両脇侍像



石仏寺石造阿弥陀如来立像



石仏寺石造地藏菩薩立像



無量寺五輪塔